

第2次

外貨獲得と経済循環による産業振興

大田市産業

— おおだに働く「場」をつくり、おおだで働く「人」を育てる —

振興ビジョン

概要版

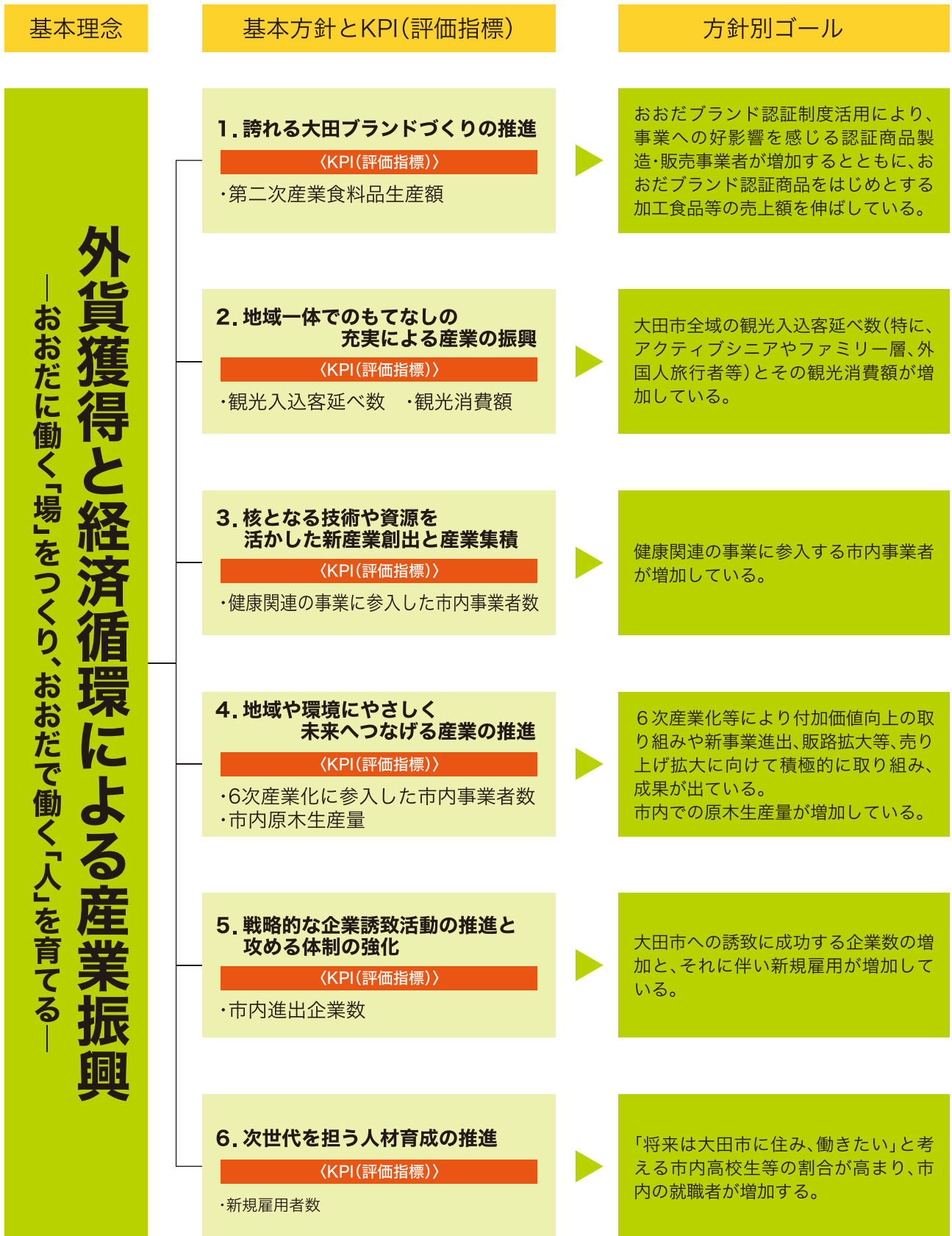
大田市では人口減少と少子高齢化が続く中、大田市を取り巻く経済状況は極めて厳しいものとなっており、大田市経済を持続していくためには、市外や海外への販路・事業拡大により外貨を獲得するとともに、市内経済の循環により経済流出を抑制していくことが何よりも求められます。

また、地域資源を活かした大田市らしい「働く場」を創出していくとともに、このまちに住み働きたいと考える「働く人」を育てていくことも求められます。

これからの10年、大田市では「外貨獲得と経済循環による産業振興」を基本理念とし、市内事業者や関係団体、行政担当者をはじめとする市民が理念を共有かつ実行しつつ、共に「おおだ」ならではの働く場づくりと働く人の育成に取り組めます。



産業振興ビジョンの体系



基本方針と対策

基本方針1 誇れる大田ブランドづくりの推進

●ゴール到達に向けた対策とその内容[◎:最重点対策、○:重点対策]

重点	対 策	内 容
◎	[1-1] 大田市や認証制度、認証商品に関する市内外への販路拡大や情報発信の充実	大田市そのものに対する知名度向上を図るため、おおだブランド認証商品をはじめとする加工食品等の販路拡大と積極的な情報発信を行います。 また、市民一体となった大田ブランドづくりの推進に向け、道の駅等を活用して市内におけるおおだブランド認証制度の認知度向上に取り組みます。
	[1-2] 認証対象の拡大と信用向上	おおだブランドの知名度の向上を図るため、認証対象の更なる拡大を検討します。また、おおだブランドの更なる信用力の確立に向け、認証商品の品質維持・向上に向けた取り組み支援を行います。

●KPI(評価指標)と目標値

KPI(評価指標)	実 績	目標値	データ取得手法
第二次産業食料品生産額	40億円*(H22)	48億円(H33)	地域経済分析システム (RESAS)

※地域経済分析システム(RESAS)より

基本方針2 地域一体でのもてなしの充実による産業の振興

●ゴール到達に向けた対策とその内容[◎:最重点対策、○:重点対策]

重点	対 策	内 容
◎	[2-1] 観光地域のマネジメントとマーケティングができる組織づくり	戦略的に観光地域づくりを推進できる組織づくりや人材育成を行います。また、市民一人ひとりが誇りと自信をもって本市の魅力を発信できるよう、市民が大田市の魅力について学ぶ機会を提供し、おもてなしの機運醸成に取り組みます。
◎	[2-2] 観光地域としての魅力向上と観光資源の磨き上げ	観光客の満足度を高め、何度も訪れる観光客を増やしていくために、ターゲットを想定して、豊富で多彩な観光資源の隠れた価値を掘り起こし、新たな楽しみ方を提案していきます。
○	[2-3] 計画的な受け入れ環境の整備	市内の周遊性を高めるために交通利便性の向上に取り組み、市内観光施設での観光案内機能の充実や観光地の景観保全に係る取り組みを行います。
○	[2-4] 効果的な情報発信	それぞれのターゲットに応じた発信媒体、手段を選択し、積極的かつ効果的な情報発信を行います。
○	[2-5] 広域連携とインバウンド観光の推進	山陰圏域、出雲圏域、石見圏域等との広域連携を行い、周辺観光地と一体となった観光地域づくりに参画し、観光客の誘導に繋がります。また、今後の展開が期待されるインバウンド観光の受け入れ体制の構築に取り組みます。

●KPI(評価指標)と目標値

KPI(評価指標)	実 績	目標値	データ取得手法
観光入込客延べ数	1,381千人(H27)	1,624千人(H33)	島根県観光動態調査(毎年)
観光消費額	53億円(H27)	57億円(H33)	観光振興課データベース(毎年)

核となる技術や資源を活かした新産業創出と産業集積

●ゴール到達に向けた対策とその内容[◎:最重点対策、○:重点対策]

重点	対 策	内 容
◎	[3-1] 健康をテーマとした新産業創出に向けた基盤づくり	豊かな自然や文化等、大田市の個性を活かした健康保養地づくりを推進します。また、事業者と地産地消や地元の料理研究に取り組む団体等との連携による健康メニューの開発等を支援します。
	[3-2] 健康×観光×食に対する新たな取り組みへの支援	健康と観光と食に対する商品開発や新事業展開の支援、事業者マッチングに取り組みます。

●KPI(評価指標)と目標値

KPI(評価指標)	実 績	目標値	データ取得手法
健康関連の事業に参入した市内事業者数	—	年2事業者以上	事業者調査(毎年)

地域や環境にやさしく未来へつなげる産業の推進

●ゴール到達に向けた対策とその内容[◎:最重点対策、○:重点対策]

重点	対 策	内 容
◎	[4-1] 6次産業化等による付加価値向上の推進	大田市産品の付加価値向上と魅力ある特産品開発に向け、一次産品を活用した加工食品開発等に取り組みます。また、6次産業化に対する助成金制度の充実を図ります。
◎	[4-2] 林業・木材産業の成長産業化と森林の多目的利用の両立	森林を活かし地域産業を伸ばす「林業・木材産業の成長化」、森林を守り育て公益的機能を伸ばす「森林の適正管理(経営)」、森林を使い次世代につなげる「木とのふれあい」で森林への理解を促進」の3つの柱を重点施策として取り組みます。
○	[4-3] 中心市街地及び商店街の活性化	駅前や商店街の活性化を目指し、中心市街地活性化基本計画の認定に向けた取り組みを加速するとともに、商店街における空き店舗対策や集客イベント等の開催を支援します。
	[4-4] 事業拡大、販路拡大に対する挑戦支援	商工会議所・商工会・農業協同組合・漁業協同組合や金融機関との連携の下、事業拡大・販路拡大に向けた取り組みに対する支援や専門家派遣等に取り組みます。
	[4-5] 地産地消による域内経済循環の推進	消費の市外流出を抑制するため、農林水産物の生産から消費に至る域内経済循環の構築を促進します。また、「市民が地元投資する」意識の醸成に向けたり組みを展開します。
	[4-6] 石州瓦の販路拡大支援	地場産業である石州瓦産業の維持・再興に向け、公共施設における石州瓦の利用推進、販路開拓支援、技術力強化による販路の拡大を図るほか、路盤材や舗装材としての廃瓦の再資源化推進に取り組みます。
	[4-7] 経営基盤及び生産基盤の支援・強化	一次産品や二次産品の持続的かつ効率的な生産体制を構築するため、借入等に伴う利子補給等の経営基盤支援を行うほか、圃場・農林道・漁港・工業用地等のインフラ整備に取り組みます。

●KPI(評価指標)と目標値

KPI(評価指標)	実 績	目標値	データ取得手法
6次産業化に参入した市内事業者数	—	年1事業者以上	事業者調査(毎年)
市内原木生産量	9千m ³ (H26)	20千m ³ (H33)	森づくり推進室データベース(毎年)

基本方針5

戦略的な企業誘致活動の推進と攻める体制の強化

●ゴール到達に向けた対策とその内容[◎:最重点対策、○:重点対策]

重点	対 策	内 容
◎	[5-1] 企業ニーズに合わせた基盤整備 と優遇制度の構築	企業ニーズに基づき、通信環境等の基盤整備を促進するほか、費用軽減等の各種優遇措置制度の検討、充実を図ります。また、製造業はもとより、IT関連企業やベンチャー企業等、小規模事業者の進出に対応した優遇策を検討します。
○	[5-2] 進出希望企業に対する積極的ア プローチの推進	企業誘致活動を確実に成果へ結びつけるため、市長によるトップセールスや、きめ細やかな相談対応、県と連携した迅速な情報共有等を進めます。
	[5-3] 誘致企業に対する継続的支援の 充実	誘致した企業の事業安定・拡大化にむけ、誘致企業に対して、積極的な人材確保の支援や進出後一定期間の優遇措置制度を検討するほか、定期的な訪問活動等により更なるニーズ把握に取り組みます。
	[5-4] 企業人脈の強化	企業進出相談の裾野を拡大するため、関係機関やゆかりある人脈等を活かし、各種企業との人的ネットワークの構築を図ります。

●KPI(評価指標)と目標値

KPI(評価指標)	実 績	目標値	データ取得手法
市内進出企業数	2件(H26~H28)	5件(H33)	産業企画課データベース (毎年)

基本方針6

次世代を担う人材育成の推進

●ゴール到達に向けた対策とその内容[◎:最重点対策、○:重点対策]

重点	対 策	内 容
◎	[6-1] 多様な人材の確保と活用促進	人口減少の中でも仕事の担い手を確保するため、地元出身者の地元就労支援、UIターン者の受け入れ支援、仕事と子育てを両立できる環境整備促進等を行います。
◎	[6-2] 地場産業を伝える産業教育の推進	地場産業に対する関心を醸成するため、農林水産業や石州瓦産業、観光業等、大田市ならではの地場産業について、体験を主体とする幼少期からの産業教育を行います。
○	[6-3] 市内事業者とのマッチング支援	定住希望者の確実な就労を促すため、市内事業者情報の積極的発信を行うとともに、ハローワーク等との連携のもとマッチング支援の充実に取り組みます。また、大田市における重要な雇用の受け皿としての機能発揮を促すため、求人情報の多い医療福祉業や建設業等において、就労支援制度の充実に取り組みます。
○	[6-4] 産業全体での事業承継支援	農家や商店等の事業承継志望者を支援し、産業全体の維持を図るため、国・県等関係機関の連携のもと、事業承継時の相談や支援に取り組みます。
○	[6-5] 新規就業や起業実現までの継続 的な支援制度の充実	新規就業や起業を支援するため、必要なノウハウを習得する研修会やセミナー等の開催に取り組みます。

●KPI(評価指標)と目標値

KPI(評価指標)	実 績	目標値	データ取得手法
新規雇用者数	年86人(H27)	年100人	産業企画課データベース (毎年)

産業振興ビジョンの推進体制

●推進体制

前回ビジョンの推進にあたり、周辺条件整備として「産業支援組織」の創設を心がけました。そして平成25年6月、地場産業の振興や新産業の創出、地域産業を担う人づくりなど総合的な産業活動を支援するため、商工会議所、商工会、JA、JF、森林組合、観光協会を構成団体とし、オブザーバーとして県、しまね産業振興財団、金融機関、職業訓練センター、ハローワークなどを加えた「大田市産業支援センター」を設立しました。

以後、産学官連携による本市の産業振興の推進や同業種間又は異業種間での事業者間連携の支援、情報共有や個別事案に対する連携した取り組み、課題解決のための研修会等を開催するとともに、意見交換をしながら前回ビジョンの検証に取り組みました。

また、本市における総合的な産業支援機関としての位置付けから、第2次産業振興ビジョンの策定にあたっては、策定委員会及びプロジェクトチームに参画して共に取り組みました。

第2次産業振興ビジョンの推進及び進捗管理にあたってはこの支援センターを中心に、関係機関や事業者の声を反映しながら同ビジョンを推進することとします。

●進行管理

1.概 要

産業振興ビジョンの推進にあたっては、その年度のKPI(評価指標)を把握するとともに、実施した取り組み内容を毎年振り返り、次年度に向けた改善点を抽出、その結果を次年度事業計画に反映することで、PDCAサイクルによる継続改善に取り組みます。(進捗管理プロセス)

また、ビジョン見直し年においては、アンケート等の手法を用いて効果検証指標の収集を行い、これまでに実施してきた進捗管理の結果を踏まえ要因分析を行います。

この結果に基づき、効果のあった取り組み、なかった取り組み等について有識者を含めた検証を行い、後期ビジョンの対策立案に繋がります(効果検証プロセス)。

区 分	H29	H30	H31	H32	H33	H34
進捗管理プロセス	→					後期 ビジョン
効果検証プロセス					→	

2.進捗管理プロセス

進捗管理プロセスにおいては、事務事業評価ヒアリングシート※をベースに、担当係が毎年度の取り組みを対策レベルで総括し、その年に実施した内容、成果、改善点を整理します。

振り返り結果は、毎年度、関係各係が参集した庁内検討会議及び大田市産業支援センター会議にて報告を行い、他係の視点も交えて更なる改善点について意見交換を行います。なお、庁内検討会議の実施時期は、次年度の予算要求に反映できるよう、秋頃に実施します。

※事務事業評価ヒアリングシート：市の最上位計画である総合計画体系に沿い、事務事業レベルで事業目的・概要・成果・課題・進捗数値目標等を整理したものの。

3.効果検証プロセス

①効果検証指標の収集

効果検証プロセスにおいては、KPI(評価指標)達成状況の要因分析を行うため、計画の見直し年にあたる平成33年度に、事業者や市民へのアンケート等意向調査を実施し、効果検証指標の収集、把握を行います。

また、事業者等へのヒアリングも併せて実施し、データでは読み取れない現場のニーズ・課題意識を把握します。

②対策方向性の検討

収集した効果検証指標の分析結果や社会動向等を踏まえ、これまで実施してきた各対策について、今後の方向性を検討するとともに、新たに取り組むべき対策の洗い出しを行います。

一連のプロセスは、平成33年度に実施する庁内検討会議及び大田市産業支援センター会議にて先行して実施した後、外部委員を含む大田市産業振興ビジョン推進委員会(仮)に上程し、外部意見を聴取した上で計画見直し等に反映します。

産業振興ビジョンの目的

平成19年3月に策定した産業振興ビジョンが平成29年3月末で10年を迎え、これまでの施策を検証し新たな一歩を踏み出すために、第2次産業振興ビジョンを策定しました。

第2次産業振興ビジョンは、前回ビジョンの施策体系は引き継ぎながら、これからの産業振興の方向性を明確にすると共に、新たに中長期の目標を掲げ、市と関連団体等が共通の理念のもと、多くの資源を有効に活用し、または新たな資源を創造し、計画的に事業を進め、着実に成果を上げることを目的としています。

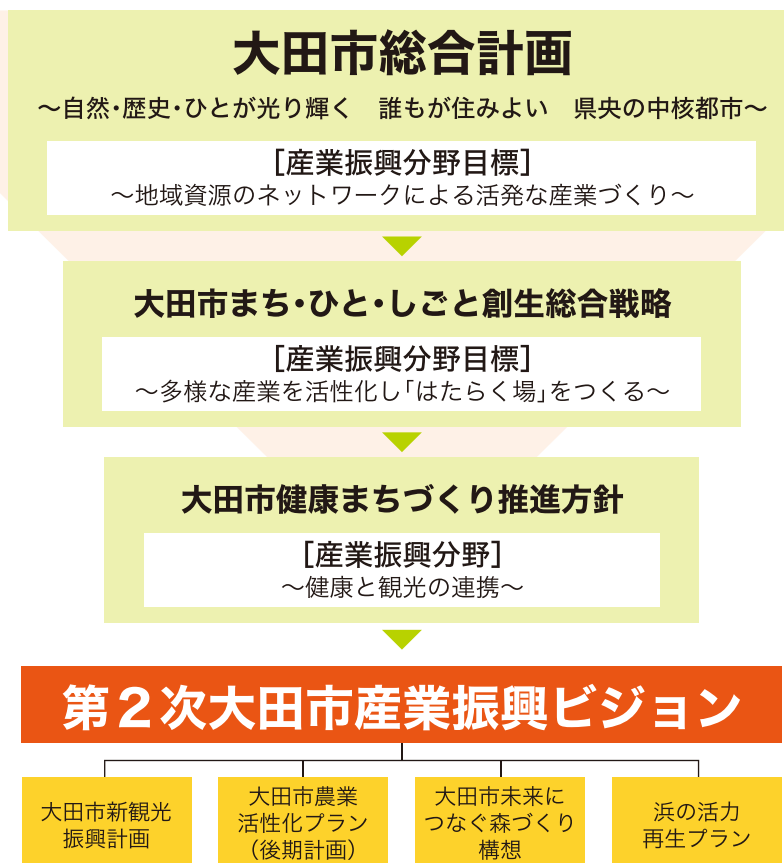
産業振興ビジョンの期間

産業振興ビジョンの期間は、平成29年度から平成38年度までの10年間とします。

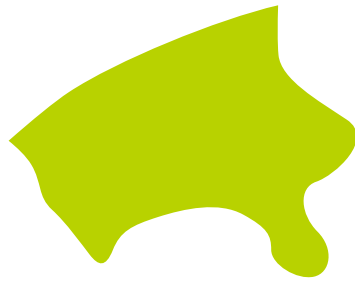
※産業振興ビジョンの進行管理は毎年度行い、ビジョンの見直し(効果検証)は平成33年度(5年目)に行います。

産業振興ビジョンの位置づけ

産業振興ビジョンは、大田市総合計画に掲げた目標の実現に向け、総合戦略、健康まちづくり推進方針の内容を踏まえ、産業に関する各種計画、方針との整合をとりながら策定を行いました。



産業振興ビジョンの位置付け図



第2次
大田市産業
振興ビジョン

